

四つ葉のクローバー

発行所
桐生厚生総合病院 中央検査部
責任者 吉田カツ江

理念 臨床検査の質的向上と信頼性の確保

2009年4月発行



結核は過去の病気ではありません

結核は、「過去」の病気ではありません。
風邪のようで風邪じゃない病気、人から人へうつる怖い「感染症」なのです。

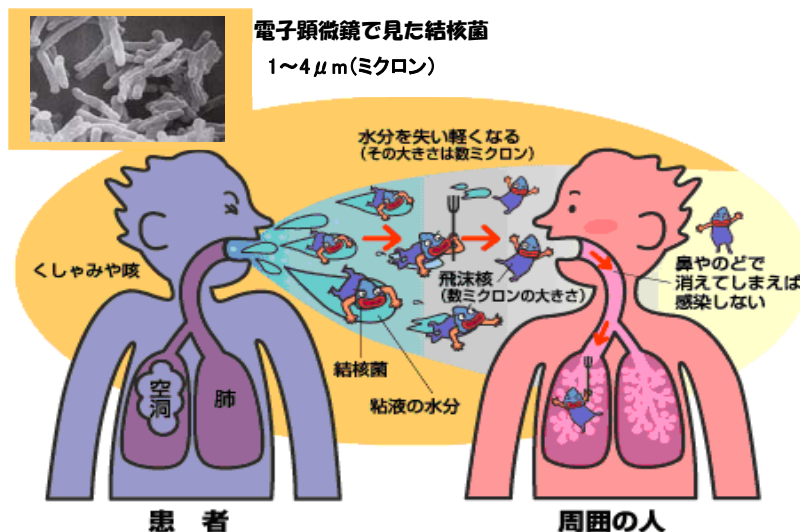
結核ってどんな病気？

結核菌が感染して発病する病気です。「過去の病気」と思われている方も多いかと思いますが、日本でも、**毎年約3万人が発症**し約2,000人が亡くなっています。結核を疑う症状は、2週間以上続く咳、痰、熱、だるさなどです。風邪に非常によく似ているため、気がつかないで病状を悪化させてしまい、他人に感染させてしまったりすることが少なくありません。当てはまる症状があるなら早めに医療機関で受診しましょう。

どうやって感染するの？

結核が進行した人が咳やくしゃみをする時、結核菌を含む小さなしぶきが飛び散ります。このしぶきの中の結核菌を吸い込み、気管支の最も末端にある肺胞に到達し、ここに定着することで感染が成立します。これを**飛沫感染（空気感染）**といいます。しかし感染したからといって、すべての人が発病するとは限りません。そのときの健康状態や免疫力、栄養状態が発病に関係しているようです。

また、菌が体内に侵入しても、鼻やのど、気管支などに引っかかり、定着する前に体外に運び出されれば、感染はしません。**健康な人が結核に感染した場合、発病する割合は約10～20%**です。発病しやすい時期は、感染後最初の1～2年です。また最近の**集団感染**の多くが若年者結核（30歳未満）で、受診の遅れなどが原因といわれています。



発病しやすい人とは・・・

免疫が低下すると発病しやすくなり、乳幼児や高齢者、糖尿病などの持病のある人や、不規則な生活を送っている人などは特に注意が必要です。



感染を知る方法は？ (当院で実施している検査)

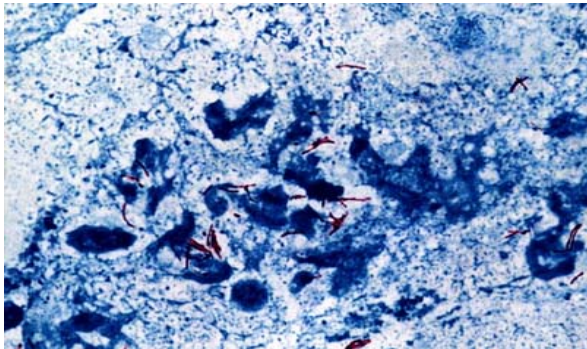
1 結核の感染を調べる検査 (QFT検査)

クオンティフェロン®TB-2G(QFT)検査は、結核菌に感染後、約2ヵ月で血液中にできた抗体を検出します。BCG接種の影響を受けないのでツベルクリン反応に比べ感度・特異度が高い検査です。平成18年から保険適用され当院でも検査を実施しています。

2 結核の発症を調べる検査 (胸部X線検査)

3 結核菌を調べる検査 (喀痰検査)

①喀痰の塗抹検査—結核菌はチールネルゼン染色・蛍光染色という方法で染めて顕微鏡で観察します。



【チールネルゼン染色×1,000】

**喀痰中の結核菌の染色写真です。
赤く棒状に染まっています。
結核菌は空気感染で人から人へ感染するため、迅速な対応が必要です。**

②培養検査—液体培地・固形培地を使って培養します。抗酸菌の増殖速度は非常に遅い為、液体培地で1～2週間、固形培地で3週間以上培養に時間がかかり最終検査結果は約2ヶ月後になります。

③遺伝子検査 (PCR検査)—検査材料から直接結核菌特有の遺伝子(DNA)を増幅して鑑別します。

結核の治療法は？

結核は抗結核薬の**確実な服薬で治る病気**です。主に行われている治療法は「6ヶ月短期化学療法」といって、初めの2ヶ月間は4種類の薬を毎日1回服用し、残りの4ヶ月は2～3種類の薬を服用します。しかし、早い時期に症状がなくなるため、服薬を勝手に中断する人が多く、その間に菌が薬に耐性をもってしまい、治療が難しくなるという問題も起こっています。正しい服薬できちんと治しましょう。

結核予防のために・・・

BCG接種 日本のBCGは副作用が少なく、予防効果の高い予防接種です。子どもの結核をなくすためにも赤ちゃんの体調をみて**生後6か月までにBCG接種を受けましょう。**

化学予防 結核の感染やその疑いがある場合は発病を防ぐため抗結核剤による予防投与を行います。

早期発見 発病していたらできるだけ早く発見し、軽症のうちに治療する必要があります。健康診断や**結核検診(65歳以上)は早期発見に役立ちます**ので、毎年必ず受けるようにしましょう。普段から健康的な生活を送り、免疫力を高めることも発病予防になります。

参考 www.jata.or.jp 結核研究所より

「四つ葉のクローバー」は当院のホームページに公開されていますので、ご参照ください。

ホームページアドレス <http://kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

担当 細菌検査